

地域をフィールドとして展開するIoT技術教育

（高知工業高等専門学校）

【取組の目的、内容】

県内の行政機関や産業界の連携の下、地域主力産業である一次産業に関わる方々と学生が出会う機会として「IoT工房」を新設し提供する。学生が地域の現状を理解すると共に身近な技術課題に気づき、地域貢献を経験することで、社会の課題を解決できる技術者に育成する。

【工程表】

	H 29.7-	H 29.10-	H 30.4-	H 30.10-
県関連機関との連携強化	→			
現場訪問を開始	→			
課題解決への取組み一部開始	→			
カリキュラム実現への検討	→			
課題解決に学生を参加	→			

【成果指標】

- ① H29年度下半期までに、県機関や現場事業者による外部評価委員会を立ち上げ、ロボティクスコースの学生全員（30名程度）を対象とした教育プログラムを構築。
- ② ロボティクスコースの学生がIoTの基本要素技術（センサ、情報処理、ネットワーク等）を持ち寄り、チーム毎（5名で構成）に課題解決に取り組む。（6つ以上の現場課題の設定が必要）
- ③ 学生が主体となる中間報告会と最終報告会を毎年度実施。連携先を通じ、企業人に参加してもらう。

【実施体制】



【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

- 今回のKOSEN4.0イニシアティブで取組む「IoT技術」と「情報セキュリティ」は工学分野に共通することから、本校ソーシャルデザイン工学科の5コースの横串とし、地域に展開する教育プログラムに組み上げ、新たな技術者育成に取り組む。
- 本科学科改組とKOSEN4.0イニシアティブの取組みを通じて得た教育ノウハウを専攻科の改組に活かす。